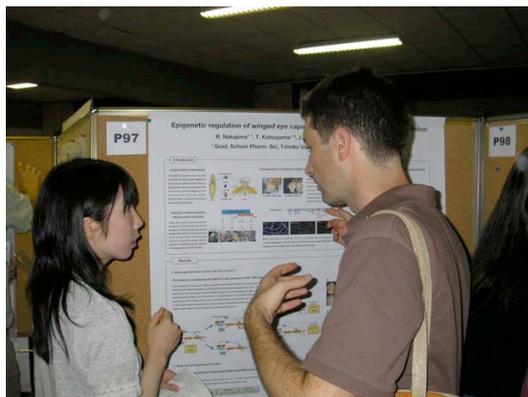


私は、2008年9月にフランスの Giens にて開催された、日本発生生物学会・フランス発生生物学会 合同年会 “Frontiers in Developmental Biology Meeting” に参加しました。フランスだけでなく周辺各国やアメリカからの参加者も多数見られ、国際的な学会となっていました。ほとんどの人が教授、ポスドク、ドクターの学生で、M2の私は最年少だったようです。

セミナーやポスター発表は全て英語で行われました。たまに聞き取れないこともありましたが、スライドを読むことで情報を補い、内容を理解することができました。論文でよく名前を見るような先生方のお話も聞くことができ、また珍しい生き物を用いた面白い研究の発表もあり、とても興味深い内容だったと思います。発生だけの学会に参加するのは初めてだったので新鮮なことばかりでした。自分のポスター発表の日には朝から緊張して、一日中ドキドキしていました。いざ発表の時間になると一瞬頭が真っ白になってしまいましたが、片言の英語でなんとか説明することができました。もちろん、聞きにきて下さった方が私の言いたいことを理解しようとしてくれたおかげです。また、ショウジョウバエのエピジェネティクス研究で有名な G.Cavalli 先生とお話する機会があり、様々なアドバイスを頂くことができました。ポスター発表は約2時間でしたが、多くの人に私の研究に対して興味を持ってもらえてとても嬉しく思いました。



また、今回の学会に参加して良かったことの1つに、発生を研究している知り合いが増えたことがあります。学会期間中は地中海に面した小さな家のような所で、ルームメイトと共に生活をしました。私のルームメイトはフランスの女の子二人で、朝食を一緒に食べたり、彼女達の友達を紹介してもらったりと交流を持つことができました。さらにフランス以外の国からの留学生や日本の学生の人達とも友達になり、昼間に海に行って遊んだり、最後の夜にはみんなで騒いだりと、とても楽しい時間を過ごせました。「またどこかの学会で会おうね!」とみんなで約束したのを覚えています。

この学会は私にとって大変有意義なもので、これからも頑張ろうというやる気がおき、将来海外で働いてみたいという夢も広がりました。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝したいと思います。